## フレキシブルな色素 WGM レーザー

Flexible whispering gallery mode dye laser

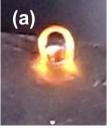
東工大総合理工1, 東工大工2 〇長井 悠佑1, 梶川 浩太郎1,2

Tokyo Institute of Technology °Yusuke Nagai, Kotaro Kajikawa

E-mail: kajikawa@ep.titech.ac.jp

自在に折り曲げ可能なフレキシブル色素レーザーは、μ-TAS などの分野での利用が期待される。 我々は、樹脂チューブに色素を含浸させ、そこへ励起光を照射することによりレーザーを作製した。チューブ外表面と空気の界面で全反射を繰り返し、Whispering Gallery Mode (WGM)レーザー発振を起こしている。また溶液に液晶を用いることでチューブの屈折率が変わり、レーザーの発振を長や発振しきい値が変化することもわかった。

内径:  $260 \, \mu m$ 、外径:  $400 \, \mu m$  の樹脂チューブ(アクリル酸製)を、レーザー色素(DCM)を添加した酢酸-2-エトキシエチル(2EA)とネマチック液晶(5CB)にそれぞれ浸漬、色素を含浸させた(DCM/2EA、DCM/5CBと呼ぶ)。チューブに励起光(Nd:YAG の 2 倍波: 波長  $532 \, nm$ )を照射し、レーザー光を分光した。いずれも、半値全幅が  $0.4 \, nm$  以下の鋭いピーク持つレーザー発振を観測した(Fig. 2 (a), 3(a))。Fig. 2 と 3 で発振波長が異なる理由は、ソルバトクロミズムによるものと考えられる[1]。DCM/5CB の方がしきい値が低か



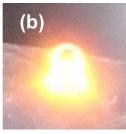


Fig. 1 Pictures of the ring laser (DCM/5CB). (a) no laser oscillation at the incident light intensity of 21  $\mu$ J/mm<sup>2</sup> and (b) laser oscillation at 47  $\mu$ J/mm<sup>2</sup>.

った(Fig. 2 (b), 3 (b))。 ①ソルバトクロミズムによる蛍光の発光効率の違い $^{[1]}$ 、②DCM/5CB の屈折率の方が高いため、O 値が大きくなった $^{[2]}$ 、の 2 つの理由が考えられる。

- [1] Y. Nagai, S.-C. Chen, and K. Kajikawa, Appl. Opt. 56, 8969 (2017).
- [2] X. Zhang, H. S. Choi, and A. M. Armani, Appl. Phys. Lett. 96, 153304 (2010).

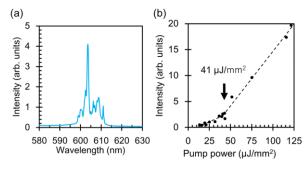
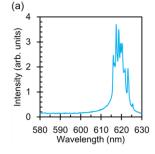


Fig. 2 (a) Emission spectra from DCM/2EA taken at  $85 \, \mu J/mm^2$ . (b) Emission intensity as a function of incident energy.



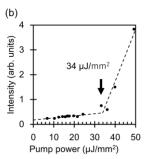


Fig. 3 (a) Emission spectra from DCM/5SB taken at  $85 \,\mu\text{J/mm}^2$  and  $25^{\circ}\text{C}$ . (b) Emission intensity as a function of incident energy.